

教 育 研 究 業 績		
令和 年 月 日		
氏 名		印
教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 内科学系統講義	2002年4月～現在 に至る	通常の講義を行うと共に、平成9年よりチュートリアル形式の講義を導入、学生の自主的な学習を促している。チュートリアルの教材はCPCで、項目毎に担当者を決め、学生自身に教材を作らせて講義もさせている。また平成13年度からは、講義内容のシラバス化を完成し、オンライン化することにより講義に活用している。
大学院応用医工学講義	2010年6月～現在 に至る	既に、分子病態解析学の講義演習を行っている。工学部卒業生、社会人、医学部卒業生、また英語圏の学生に日本語と英語を交えて、血液学、糖尿病学の最新の情報、実験方法につき指導している。
2. 作成した教科書、教材 独自に作成した教材 学生向け教科書の執筆	2011年1月	実習・演習用に独自の教材を作成し、学生の実習に対する興味を高めている。 学部学生向け教科書を分担執筆し、講義で教科書として使用している。
3. 当該教員の教育上の能力に関する 大学の評価 学生のアンケート調査の実施(学生 授業評価)	2015年2月	共通教育で担当した授業科目「健康とスポーツ」の学生授業評価(授業内容・方法等について)を受け、良好な評価を得た。
4. その他 山口大学医学部教育審議委員会委員	2013年4月～2015 年3月	医学部学生教育全般にわたり、他の委員と協力して討議、改革を行ってきた。
臨床研修委員会委員	2013年4月～現在 に至る	医学部卒後研修のあり方について、他の委員と協力して討議、改善に努めている。

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
糖尿病専門医研修ガイドブックの作成	2016年5月	日本糖尿病学会認定の糖尿病専門医を取得するために必要な知識を網羅するテキストを編集委員の1人として作成した。
糖尿病臨床カリキュラム作成	2015年7月～現在に至る	日本糖尿病学会認定の糖尿病専門医を取得するために必要な知識と症例経験の基準を示すガイドラインを学会理事長、委員長の指導のもとに作成しつつある。内容は研修ガイドブックの内容に対応している。

研究業績(著書)				
題名	単著・共著などの別	発刊年	出版社、書名、初頁～終頁	概要
1. 泌尿器領域(腎, 膀胱)の細胞診と病理像 2. 3. 4. 5.	共著	2010	医学書院. アトラス細胞診と病理診断. p114-117	腎と膀胱における数種の良性腫瘍の細胞像と病理組織像について解説した。 担当部分：標本の収集と解説 共著者：宇部太郎、下関四郎 編者：山口五郎、小野田六郎

研究業績(原著)				
題名	単著・共著の別	発表年	発表誌名、巻、初頁-終頁	概要
1. Pathological study on amyloidosis – Scanning electron microscopic observation of amyloid-laden liver–	単著	1992	Acta Pathol Jpn 27:809-822	実験的アミロイドーシスのマウス肝におけるアミロイド線維の形成過程を走査電顕を用いて検討した。アミロイド線維束がKupffer細胞から放出される像が観察され、アミロイド線維の形成にはKupffer細胞が密接に関与していることを三次元的に初めて明らかにした。
②. Multihormone-producing islet cell tumor of the pancreas associated with somatostatin-immunoreactive amyloid: immunohistochemical and immunoelectron microscopic studies.	共著	2013	Am J Surg Pathol 22:360-367	膵ランゲルハンス島にアミロイド沈着を伴った症例を電顕的に検討した。アミロイド線維はβ細胞と密接な関係があり、β細胞の内分泌顆粒の一部でdense bodyとアミロイド線維の移行像が観察された。 担当部分：電顕的検討、まとめ 共著者：Ube T, Kogushi J, Yamaguchi S
3.				
4.				
5.				

研究業績(その他)				
題名	単著・ 共著 の別	発表年	発表誌名、巻、 初頁-終頁	概 要

研究業績(学会発表)				
演題名	演者・共同演者の別	発表年	学会名	概要
1. Multihormone-producing islet cell tumor of the pancreas associated with somatostatin-immunoreactive amyloid: immunohistochemical and immunoelectron microscopic studies.	演者	2014	V th international amyloid and amyloidosis symposium New York, USA	担当部分：研究の遂行、まとめ 共同演者：Ube T, Kogushi J, Yamaguchi S
2. ICUにおける患者家族に対するサポート	共同演者	2018	第38回日本看護学会—看護管理—	担当部分：アンケート収集、まとめ 共同演者：山口花子、宇部太郎、小野田次朗
業績のまとめ				
著書:筆頭者数/総数 1/1編				
和文:筆頭者数/総数 1/1編				
欧文:筆頭者数/総数 0/0編				
原著:筆頭者数/総数 2/2編				
和文:筆頭者数/総数 0/0編				
欧文:筆頭者数/総数 2/2編				
その他:筆頭者数/総数 0/0編				
学会発表				
国内学会:筆頭者数/総数 1/1件				
国際学会:筆頭者数/総数 1/1件				

文部科学省科学研究費等の交付				
交付年 (西暦)	種別	研究題目	代表・ 分担	全研究者名 (研究代表者所属)
1. 2016 2.	科学研究費 基盤研究(C)	アミロイド線維の形成と吸収のメカニズム：プロ テインA・金コロイド法による検討	代表	宇部太郎, 山口花子 (山口大学大学院医学系研究 科)